

欧山田、角界デビュー

秋田市出身「一歩ずつ強くなる」

日本代表にもなったレスラーが力士となり、大相撲夏場所で初土俵を踏んだ。欧山田(23)は、本名山田修太郎、秋田市出身、鳴戸部屋はレスリングで20年アジア選手権男子フリースタイル86kg級優勝の実績を誇る。「相撲は体重無差別で強い人を決める。大きな魅力を感じた」と強さを追求し、マットから土俵に闘いの場を移した。

秋田商高で全国大会優勝を果たすなど活躍。強豪の山梨学院大に進み、1学年先輩の東京五輪金メダリスト、乙黒拓斗(自衛隊)らと汗を流した。大学卒業後の進路を考えていた時期、レスリングの欧州ジュニア王者にもなった鳴戸親方(元大関琴欧洲)から勧誘され、角界入りを決意。乙黒拓には「おまえならできる」と激励された。

新弟子検査では178cm、96kgの体格。前相撲では140kgを超える学生相撲出身者に簡単に寄り切られた。まずは体重を増やし、前に出る力をつけることが課題となる。鳴戸親方は「稽古を続けられるスタミナが素晴らしいし、真面目に努力ができる。楽しみだ」と期待を寄せる。

名古屋場所(7月10日初日・ドルフィンアリーナ)から番付にこの名が載る。レスリングはポイントを失っても6分間の

試合中に挽回できた。一瞬で勝負が決まる相撲の厳しさと難しさを実感しながら、欧山田はこれまでとは一切関係ない。とにかく稽古をして、一歩ずつ強くなる。お客さんを沸かせたい」と成長を期した。



大相撲夏場所で初土俵を踏んだ欧山田(両国国技館)

©秋田魁新報社